



1500年の日本史を通貫する「三木稔 日本史オペラ9連作」の一つ  
オペラ“じょうりり”日本語版 徳島初公演



恩義と愛の三叉路に立った  
女とふたりの男  
選んだのは愛の道

# OPERA JORURI

作曲・芸術監督 三木稔

オペラ“じょうりり”

2012.1.29

開演 14:00～〔開場13:30〕  
場所 あわぎんホール 1Fホール  
徳島県郷土文化会館

入場料  
前売り一般 〔指定席〕 6,000円〔当日券500円増〕  
前売り一般 〔自由席〕 5,000円〔当日券500円増〕  
前売り小中高生 〔自由席〕 2,000円〔当日券500円増〕  
※前売り券は入場・開演まで有効です。当日券は当日開演まで有効です。

【主催】財団法人徳島県文化振興財団【共催】徳島県【協賛】NHK徳島放送局・四国放送・徳島新聞社・朝日新聞徳島支局・毎日新聞徳島支局・読売新聞徳島支局・徳島新聞徳島支局・徳島経済新聞徳島支局・ケイプテレビ徳島・エフエム徳島・エフエムびざん【助成】文化庁「平成23年度文化庁優れた劇場・音楽会からの創造奨励事業」平野啓彦

【プレイガイド】あわぎんホール・小山市学習館駅前支店・宮崎書店徳島店・小山市学習館南門店・平野啓彦センター/カーシネマイト/コード767442

【お問い合わせ】あわぎんホール 徳島県郷土文化会館 〒770-0835 徳島県徳島市御幸町2丁目4番地 TEL:088-622-8121 FAX:088-622-8123 E-mail: joryou@youban.or.jp

# 1500年の日本史を通貫する「三木稔 日本史オペラ9連作」の一つ オペラ“じょうりり”日本語版 徳島初公演

## オペラ“じょうりり”

このオペラは、アメリカのセントルイス・オペラシアターの委嘱作品として1985年にセントルイス・ヒルトンセンターで初演された。台本、演出は、日本文化に深い理解を持っていたイギリス生まれの故コリン・グレアム、徳島出身の三木稔が作曲した。三木稔は5世紀の古代日本を舞台にした「ワカヒメ」から20世紀の日本をえがいた「幸せのパゴダ」まで日本の歴史の流れに沿うように9つのオペラを作曲した。この作品は時代を追って数えると6番目で17世紀、江戸時代の庶民に人気を博した人形浄瑠璃の世界に題材をとっている。オリジナル台本は英語だが、2005年の日本初演の際、作曲家らによって日本語版が作られた。

この徳島公演はこの日本語版をもとに時代を明治期にし、わかりにくい幻影場面をカットして、恩義あるものに背を向けてまで貫こうという愛を抽出しようと試みる。指揮は三木音楽に精通する榊原徹。お種に、三木作品など「和もの」に意欲的に取り組む飯島香織、与助と小掾には、二期会など、さまざまなオペラで高い評価を得ている魅力的な個性の二人、坂下忠弘、井上雅人を配した。作曲家三木稔の故郷であって人形浄瑠璃の長い歴史のある徳島で、このオペラが初演から27年の年を経て上演される意義はきわめて大きい。



**【スタッフ】**  
 作曲・芸術監督 / 三木稔 音楽監督・指揮 / 榊原徹 演出・美術 / 金子根古 舞台監督 / 友井玄男  
 照明 / 高山晴彦(P.A.C) 衣裳・振付け / 工藤暁子 メイク / 吉場一美  
 コレベティール / 矢田信子 稽古ピアノ / 松岡なごさ 副指揮 / 井上一平 演出補 / 武藤主生  
 舞台監督補 / 照井旅詩  
 制作 / 木津陽介・東京テアター プロデュース / 榊原徹

**【出演】**  
 お種(おたね) ..... 飯島香織  
 与助(よすけ) 若い人形遣い兼人形師 ..... 坂下忠弘  
 阿波少掾(あわのしょうじょう) 人形浄瑠璃一座を率いる盲目の太夫 ..... 井上雅人  
 弟子 聞太(もんた) ..... 飯田康弘  
 弟子 言次(ことじ) ..... 岩田健志  
 弟子 見造(けんぞう) ..... 新見準平

**【特別出演】**  
 人形遣い ..... 青年座

**【演奏】**  
 オーケストラ / 東京劇場管弦楽団 新亭(二十絃筆) / 山田明美 太極三味線 / 山崎千鶴子  
 尺八 / 戸川藍山

## 恩義と愛の三叉路に立った 女とふたりの男 選んだのは愛の道

あらすじ  
 人形浄瑠璃の一座を率いる盲目の太夫、阿波少掾(あわのしょうじょう)には、お種という年の離れた妻がいる。少掾が若いころ、親に見捨てられた幼いお種に出会った。やっと親を探しあてたが、その親の手でお種は茶屋に売られてしまう。やがて美しく成長したお種が、龍成という乱暴な男によって奪われそうになったとき、少掾が救い出した。そのとき龍成は、お種を渡す代わりに、少掾の目から光を奪い取ってしまう。少掾は文字通り盲目的にお種を愛し妻とした。

オペラは、一座の出しものの終幕から始まる。為永という武将が壮絶な討ち死をする場面である。主遣いは、少掾の一番弟子、与助。実は与助はお種を密かに愛しており、お種も与助を恋しく思っていた。やがて、与助の彫った頭が、お種の顔にそっくりであることを少掾が気づくことになる。見えなくなったのは、光だけではなかったのだ、と少掾は思い悩む、。。。。。

オリジナル台本 コリン・グレアム(1932~2007)について  
 コリン・グレアムはロンドンで生まれ、1951年に王立演劇学校で学ぶ。王立オペラ劇場での経験を経て1953年イングリッシュ・オペラ・グループへ移ってから、プリテンとの長年にわたる共同作業が始まる。プリテンのほとんどの舞台作品を演出したことも世界的に名声を得ていた。1978年よりセントルイス・オペラ劇場で演出部長を務め、1985年に芸術監督に就任。この年三木稔への委嘱作品オペラ“じょうりり”を初演。その後1987年にはオペラ“じょうりり”日本公演、1995年には日本語初演を成功させ、2000年には三木への委嘱作品オペラ“源氏物語”をセントルイス・オペラ劇場で演出し大成功している。

作曲 三木稔(1930~)について  
 徳島市生まれ。東京芸術大学作曲科卒業。前代未聞の偉業である1600年間に渡る日本史に沿った「三木稔 日本史オペラ9連作」は、1975年オペラ「春琴抄」、1985年「じょうりり」に続き、オペラ「幸せのパゴダ」までの大連作。他に、Symphony for Two Worldsを含む「鳳凰三連」、「大地の記憶」など東西を結ぶ管弦楽曲、室内楽曲・独奏曲の多くは海外からの委嘱で作曲され、国際的なレパートリーである。西洋音楽と、邦楽器に加え東アジアの楽器を用いたアジア音楽の融合は現在でも作品のテーマとなっている。数多くの演奏団体を率い、音楽祭の主宰、芸術監督やプロデュースなどでも、かつてない創造活動を国際的に展開している。これまでに徳島県文化賞、紫綬褒章、旭日小綬章、福岡アジア文化賞など受賞している。

指揮者 榊原徹について  
 東京芸術大学音楽学部器楽科入学。在学中より演奏・指揮活動を始める。指揮を松尾葉子氏に師事。東京芸術大学卒業後は西ベルリンに在任し、ベルリン・ドイツ交響楽団、ベルリン交響楽団他で演奏活動を行い1991年帰国。オーケストラ、オペラ、バレエなどを中心に指揮者・音楽監督として活動し、(財)日本オペレッタ協会音楽監督などを歴任し、日本と欧州で数多くの公演指揮を務める。またオペラ上演で、2006年、2008年には、国際ギルバート&サリヴァン・フェスティバルより招聘され、地元紙の年間優秀公演賞など受賞。作曲家三木稔のオペラでは、「岡田川・くさびら」「幸せのパゴダ」(初演指揮)「じょうりり」など、主要作品に携わる。バレエ作品においても数々のレパートリーを演奏し、現在も多くのバレエ団と共演している。そのほか日本音楽集団、オーラなど現代邦楽の分野でも活動が多い。